



健康

次は
何の検査かな？😊



今年も健康第一で
頑張るばい！👊

診断

ドキドキ…💓



里だより

No.401

令和7年6月1日

一発行一

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



六月号もくじ

(ページ)

施設長より……………1

サビ管より……………3

主任より……………5

職員より・医務より……………6

サービス向上委員会より・

行事報告……………7

行事予定・

ありがとうございました・

編集後記……………9



施設長より

ピアカウンセリング的な・・・



五月半ば、天気予報では梅雨の走りと以後二週間の予報でも曇り、雨マークが並び、湿度も高くなるうえ、気温も半数以上が夏日（二十五℃以上）となっています。熱中症注意の喚起も入ってくる始末。最近では、二季化していて、人々を魅了する四季の国日本はどこへやら・・・。

世界の異常気象に詳しいある大学教授の話では、春と秋が極端に短くなると、三月上旬に桜の開花、五月にセミが鳴き、夏の豪雨が増え、九月に四〇度を超える日が多発、十月には台風や蚊の増加、紅葉シーズンは十二月ともいわれているようです。私たちの体調も季節に合わせるのに苦労するため、利用者さんはより体調管理が難しいのは明白です。夏場を迎える前に汗をかきやすくする体を作るための暑熱順化も困難を極めます。高齢化している現状ではなおさらです。定期的に水分をとつてもらうように心掛けていますが、今後は、経口補水液やそれに類似した飲み物の必要性の話が上がっています。これからは季節に合わせた健康管理ならぬ、地球環境変化に合わせた健康管理になりそうです。

さて、四月末の施設・後見人・家族情報交換会では、ご家族のグループワークを行わせていただきました。本来、グループワークは、設定したテーマに対して、意見を出し合う『発散』をして、その意見を『集約・収束』するファシリテーターを配

置し、解決策を導くのが良いのですが、時間の関係上、『発散』までとさせていただきます。

今回の目的として、以下のことを設定しました。

①「情報交換会」という名目であるが、施設の一方的な説明になっっている。

② ご家族の思い・悩みを発散できる場を設ける。

③ ご家族の思い・悩みを聞き取り、知る。

④ ご家族同士の面識が少なくなっているため、グループワークを通して交流を図る。

⑤ 保護者会役員会とその他の保護者をつなげる。

⑥ 施設職員（主任以上）を家族にも知ってもらう。

また、テーマとして「後見人・家族として不安なもの・こと」としました。ここであげられた意見としては次のようなものがありました。（一部抜粋）

【親御さんより】

● 親亡き後、（利用者さんの）兄弟姉妹に負担がかからないようにしたい。

● 家に連れて帰りたいが家族の介護も必要になってきて難しい。本人が重たい病気で、今後自分一人で見ているのだろうか。

● 兄弟姉妹には、それぞれの家庭がある。

● 老々介護の状態で、この先が不安。

● 高齢になって病気になるったら施設を出なければならぬのか。他者に怪我をさせたりしないか心配。

● （利用者さんに）兄弟姉妹がいないので次の後見人が未定。

【兄弟姉妹より】

- 利用者も歳をとり、体調が心配。
- 親も高齢になり後見人を立てることを考えなければならない。
- 裁判所に提出する後見人の書類など大変なのではないだろうか。
- 両親の身体のこと心配。
- 私たちも高齢になってきて、車を運転して来られなくなる。
- 私たちも高齢になってきて、私たちが先に亡くなったら。

簡条書きにすると分かりやすいものの事務的にも捉えられそうですが、グループワークの際にはそれぞれのご家族の想い・感情も乗せられたお言葉でした。親は親の想い。兄弟姉妹は兄弟姉妹の想いもそれぞれです。また、時の移り変わりや立場が変わることと不安や心配事も変わってきます。私たちもご家族の想いに直接触れ、不安に思われていることを再認識できたことは貴重な体験になりました。他のご家族にも同じ、または類似した悩みや境遇の方が身近にいることを知れたり、悩みを口にして、ほんの少しでも気持ちが軽くなっていただけなのであれば幸いです。

以前と違い、ご家族間でも相談をするお相手が減っているのは事実だと思います。今回の交換会がご家族間をつなぐ一翼を担えていることを願います。

今後、情報交換会の取り組みについて、ご家族からのご提案などがあれば精査し取り入れていきたいと思っています。

施設長 松永 一博

～お知らせ～

利用者さんのお部屋の畳替えを行いました！！

《Before》



《After》



サビ管より

心構え



日本知的障害者施設協会より発刊されている「サポート四月号」に「福祉職員の心構え（まずは手法より姿勢や視点を大切に）」のタイトルのもと、私たちが必ず理解すべき、大切な事が書かれていました。自分のこととして、また、組織やチーム力を向上させていく上でも重要なことだと思い、いくつか取り上げてみました。

① 利用者主体

「利用者主体であるべき」といった言葉は会議や職員間の話においてもよく聞かれます。但し、個人の姿勢や実践のうえで果たしてそうだろうかと思うところもあります。

自分の業務で忙しく、利用者さんの声を後回しにしたり、先入観で決めつけてしまい、そのまま結論を出すといったことがあるように感じます。利用者さんの思いや希望は様々です。だからこそ、きちんとした受容から本質を見抜いていくこと、不安や悩みを理解し、伝えていくことが必要であり、そこから信頼関係が生まれるものだと思います。

「利用者さんの信頼を得たい、不安を安心に変えたい、自分らしく楽しく過ごしてもらいたい」であれば、まず自分がどうあるべきかを考えなければなりません。利用者さんを尊重した姿勢が持ててこそ、初めて「利用者さん主体の支援」が実践できるものだと思います。一人でも、ひとつでも多く、希望や期

待に応えていける、利用者さんに必要とされる存在になっていかなければならないと改めて感じます。

② 学ぼうとする姿勢

「当たり前を疑う」小川理事長が繰り返し話される言葉であり、今も大切にしている言葉です。

知識や技術を身につけることはとても大切であり、自信にも繋がっていきますが、それより疑問に捉える事や確かめるといった姿勢が必要だと思います。言葉、行動、表情等、日常的に目にしている事に対し、別の角度から見、考えることが出来るようになることで、改善の糸口となり、解決していくこともあるのかもしれませんが。技術や知識だけに偏った頼り方をしてしまうと、本来重視すべき、気持ちや意思といったところが疎かになるように感じます。

これからも当たり前を疑いつつ、本質を確かめることを意識できるようにしたいと思います。

③ チーム支援

「自分だけで仕事が終わることはない」初代の施設長が常に言われていた言葉です。その仕事は次に繋がりが、またそれを発展させるとなれば先は続いていくと教えられました。教えられてきたことが、教える立場に変化し、その大切さも感じているところです。

支援に関することも全く同じで、自分一人でその人への支援を完結させることは出来ません。チームで情報を共有し、共通認識をもって支援しなければ、かえって悪い方向へ導いてしま



います。「自分は出来る」ではなく、「自分もできる」状態を目指し、お互いに支え合う気持ちを持たなければなりません。当事業所で期待する職員像は「めくばり、きくばり、思いやりのある職員」です。職員間ですらできない状態であれば、当然、利用者さんにも伝わらないです。

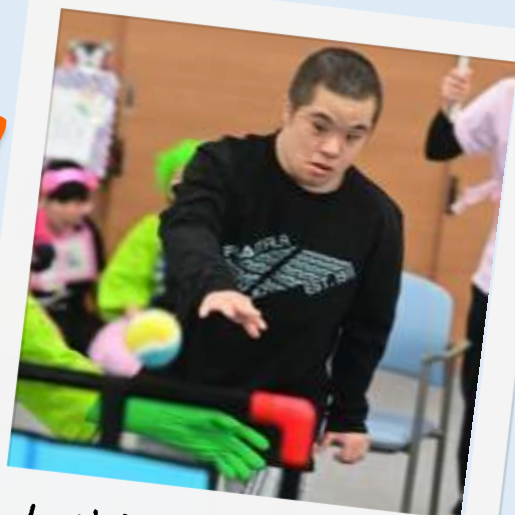
私たち職員が困っているのではなく、その前に利用者さんが困っていることを忘れず、そこを改善するためにチーム支援を機能させるようにしたいと思います。

原稿の中に「やり方」ではなく、「あり方」を意識するとありました。方法や手法のやり方の話に終始するのではなく、まずは利用者さん、職員、組織や事業所の在り方を考え、目の前にある課題に向き合うべきだと思います。

支援課長 今田有哉

施設 PR 委員会 今月の 1 枚！

4 月からつくしの里に
新しい仲間が入りました！！
つくしんピック初出場！！
良い投げっぷりです①



Let's Strike!!

主任より

コミュニケーション



私は熊本県生まれですが、他県（千葉・広島）に住んでいて約十年前に熊本に戻ってきました。娘がおり、引越越しをしてきて初めは熊本弁が分からず、学校で意味が分からない事を言われて困ったとよく話していました。先日、その娘が熊本弁の量の比較級は「こしこ・こぎゃん・たいぎゃ」と話していて、私もあまり使わない熊本弁を習得している事に気づき、時が経過すれば変わるものだな、言葉って面白いなと思いました。同じ日本でも地方が変われば言葉も変わり、同じ日本語でも意味が分からなかったり、違ったりします。

広島で散髪に行くと「むずかしくないですか」と言われます。何が「難しい」のだろうかと思ったのですが、「いい具合ですか」とか、「これで良いでしょうか」という意味だったようです。広島生活は五年でしたので、広島弁は少しだけの習得でしたが、「むずかしい」と「難しい」の同じ言葉ですが、意味は違うとなると分かりにくいです。この様に自分では相手に分かると思って話をしている事も伝わらない事もあります。住んでいる場所、年齢、生活環境、体の状態など様々な事で変わってきます。

つくしの里の利用者さんも目が見えない方、耳が聞こえない方、言葉話さない方など様々な方がいらつしやいます。耳が聞こえづらい方には、近くで大きな目ゆつくりした口調で、はっきりした言葉を使い話します。また言葉が分かりづらい方には

は絵や写真、ジェスチャーなどを用いて伝えたりします。

つくしの里では「3つの約束」を取り決め、職員が利用者さんと約束をしています。その中の一つに「私達は皆さんと笑顔で優しく接し、分かりやすい表現で言葉を掛け合います」とあります。分かりやすい表現は一人一人違います。その方にとって一番分かりやすいのは何かをきちんと理解してコミュニケーションを取っていききたいです。

また職員に対しても同じです。同年代の職員と二十代前半の職員と三人で「音楽のCD」の話をしていたら、私達には当たり前と思っていたのですが若い職員には「親世代の物ですね。CDに録音したことがないので分かりません」と返事がきました。同年代の職員と顔を見合わせ驚きました。職員間でも世代や男女の違いだったり、考え方の違いだったりで相手に何かを伝えたと考えていても、相手には伝わっていない、分かりづらい事もあると思います。「伝えたのに」ではなく「伝わったかな」と確認する事が大事だと考えます。自分とは違う一人一人の誰かとしつかりコミュニケーションを取れるように、また取れているか、取ろうとする努力をしているか考えて行動していきたいと思えます。

主任支援員 松若るみ



職員より

入職して早くも 2 年目に入りました。学生の頃と比べると社会人は時間が過ぎるのが早く感じます。作品展示会の担当となり、利用者さんと作品作りを日々の活動の中で取り組んでいます。利用者さんの色の感性はとても目を引くものがあります。今年は 4 班の担当職員紹介の職員の似顔絵も担当させていただきました。お時間がある際は是非学習訓練棟を覗いて下さい。4 班の職員の似顔絵は描けたので次は全職員の似顔絵を描くのを目標に頑張ります。いつか全利用者さんの似顔絵も描けたらなと思っています。

(支援員 野口)



担当利用者さんだけではなく、周りの利用者さんの表情や笑顔、ご家族の皆様もやさしく言葉を掛けていただき、他の職員と共に日々成長出来ているのではないかと感じながら楽しく業務を行っております。

担当利用者さんが変わった事により、今まで自分が学んできた知識や経験等が、新しく担当する方に対してどのようなお手伝い出来るのか、どのような支援が一番良いかなど他の職員と共に話し合える職場であり続けるように、職員間でも声掛けや笑顔を絶やさずにコミュニケーションを取っていききたいと思います。

私事です、休日は子供たちの試合の応援や自分自身が出来る範囲の運動を行いながらストレス解消を図っています。しかし、年齢と共に体を労わってやりたいとの気持ちが強く少し運動不足になることもあります。運動神経が良い職員が多い為、気持ちでは負けなようにしていきたいのですが、無理をして体の不調に気付くようになってきています。

去年の目標であった体重減に向けてリバウンドしないようにゆっくりと目標を達成できるように、利用者の方々と共に運動を頑張っていきます。



(支援員 村上)

医務より

今年はいつまでも肌寒い日が続き利用者さんの体調が心配でした。数名の利用者さんが風邪症状で受診をされましたが、大きく体調を崩す方は少なく皆さん元気に過ごされています。先日、1 回目の健康診断が無事に終わりました。これからの健診予定は、**歯科検診 (5 月～)**、**大津町がん複合検診 (9 月か 10 月)**、**2 回目健康診断・インフルエンザ予防接種 (10 月 30 日)** です。

今年度より带状疱疹ワクチンの定期接種が開始されます。対象年齢の方には大津町より案内がありましたので、面談の際にお知らせします。対象年齢ではない方でも接種は可能とのことです。希望される方は、ご連絡ください。費用や日程など確認してみます。

これからの季節、外出する機会が多くなります。まだ身体が暑さには慣れていない時期でもあるため、利用者さんの体調管理には十分気を付けていきます。

(看護師 松村)

サービス向上委員会より

■ 生活【主任支援員 池田・支援員 井・日高】

トイレやお風呂、ホールや集会室など、利用者さんが共有して使用するところをより良い環境にしていく活動をしています。新年度を迎え、現在は、掲示板の整備を行なっています。それぞれのサービス向上委員会の働きがみえづらいところがあり、『お知らせコーナー』を設け、それぞれの委員会の目的をお知らせしています。また、里だよりも利用者さんの関心の強いところをピックアップして拡大したものを掲示しています。興味をもって見てくださっています。文字を拡大し、フリガナを振った文章で冊子にしたものや持ちやすい様にサイズ違いのものを準備しました。

利用者さんが更に快適に過ごせる施設を目指していきます。



行事報告 ※ 4/21（月）～5/20（火）の実施分について報告いたします

★ 利用者健康診断【4月17日（木）・24日（木）つくしの里】

今年度第1回目の健康診断を行いました。熊本セントラル病院から施設へご来園いただき、2日間に分けて実施しました。健診内容は、身体計測・尿検査・血圧・血液検査・視力検査・聴力検査・心電図・胸部レントゲン検査・診察です。利用者さんは、慣れたもので職員の誘導でスムーズに動くことができ半日で無事終わりました。結果は、揃い次第お返ししたいと思います。

（看護師 松村）



★ 施設・後見人・家族情報交換会【4月26日（土）つくしの里】

今回は令和6年度の結果報告がメインでしたが、あすなろ福祉サービス評価機構の方をお迎えし、昨年受審した第三者評価の結果も説明していただきました。全体的に高い評価を頂き、日頃の支援の励みになり、これからもサービスの質を維持・向上できるように気を引き締めていかなければならないと感じました。ご指摘を頂いた点についても、より良い施設、より良いサービスとなるように改善を目指したいと思います。

その後、初めてグループワークを行い、「将来に向けての不安」をテーマに各グループに職員も交じって、意見交換を行いました。私のグループではあるお母様がお互いに年を重ねてしまい、外泊をさせてやれないと涙を浮かべて話される状況があり、改めてこの仕事の価値や重要性を感じました。こういったご家族の生の声が聴ける機会はとても貴重ですし、是非職員全員に参加させたいと思える内容でした。私事ですが、今回初めて進行役を務めさせて頂き、こちらも貴重な経験となりました。お忙しい中、多数のご参加ありがとうございました。
(支援係長 井上)



行事予定

☆ 生活介護班⑤班外出（植木町・旭志町）

期 日：6月9日（月）

内 容：植木町にある家族風呂『湯～庵』で温泉を堪能し、旭志の道の駅で
お昼ごはんを頂きます♪



☆ スイカ割り大会（つくしの里）

期 日：6月17日（火）

内 容：グループに分かれてスイカ割り大会を開催します！！
どのグループが上手く割れるのか！？楽しみです(^^♪



ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和七年四月二十一日～

令和七年五月二十日です



【寄付・寄贈】

・荒木 好美 様	・内田 節代 様
・清田 すま子 様	・米田 政輝 様
・谷崎 信夫 様	・田上 涼子 様
・中島 茂 様	・廣瀬 悦美 様
・古川 信子 様	・三上 貴宏 様
・光永 順子 様	・守田 勝之 様
・山口 静美 様	・和田 朋子 様
・三木 聡之 様	

【ボランティア】

・村里 和洋 様	・トキロロ 様
・カモメ 様	・木本 ふじ子 様



誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。

※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して記事
の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等
がございましたら何卒ご容赦していただき
たく存じます。

編集後記

今年も梅雨の時期に入ろうとしています。
梅雨の晴れ間に見える虹を見つける
と、幸福感を感じ、前向きな気持ちにな
ります。「また、明日も頑張ろう！」と思
える気持ちを大切にしていきたいと思
います。

